

宮原浄水場低区配水池

宮原浄水場は 1890 年に完成した西日本最古の浄水場である。1886 年、帝国海軍は呉を将来の主要な海軍駐屯地として指定した。基地の運営には、船舶への給水や造船用の水を大量に必要とするため、給水施設の整備が最重要課題となっていた。呉市は、横浜市、函館市に次いで全国で 3 番目に近代的な水道インフラを整備した都市である。日光盆地の水は浄水場で処理された後、外部からの汚染を防ぐために加圧された鉄パイプを通して運ばれる。

施設は休山の麓の高台に位置し、約 4 キロ離れた二河水源地取水口から二河川の水を引いている。面積は幅 37 メートル、長さ 44.4 メートルで、総水量は 8,000 立方メートル。市内の住民に水道水を供給するほか、工場などに工業用水を供給している。

宮原浄水場からほど近い場所には、1889 年に海軍病院として設立された国立病院機構呉医療センターがある。病院に確実にきれいな水を供給するために、意図的に近くに建設がされた。この新しい給水インフラは、海軍の規模の大きさから、当初は海軍専用とされていたが、1918 年に本庄ダムが完成すると、その一部が市営用水に転用された。それ以前の呉市の住民は、汚染されやすい井戸水に主に依存していた。

1890 年に最初のシェッド式配水池が建設され、1901 年には沈殿池が、1923 年には緩速ろ過

池が追加され、いずれも二十一世紀初頭まで使われ続けた。1985 年に増設された第二沈殿池は、太陽熱汚泥乾燥床に改造されたが、当初の構造の多くは保存されている。

浄水場は一般公開されていないが、敷地外から外観を見ることができる。建物の外観と屋根は、イギリス海軍が導入した建築様式である赤レンガを使用しており、呉の海軍の歴史を感じさせる。宮原浄水場は 1998 年に国の登録有形文化財に指定されている。